

お台場旧防波堤（2 島）における鳥類のモニタリング調査 夏季調査（7 月）報告書

2020 年 8 月一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内旧防波堤内における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50 m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 2 年 7 月 30 日（木）	8 : 00～14 : 00	曇り

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を行った。

（1） 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望のよい定点を設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回の秋季調査にて、ホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内の生息状況を確認するため、春季調査から夏季調査までの105日間、西島に自動撮影カメラを1台設置した。

● その他の生き物

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。

5. 評価方法

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果の評価をした。調査回の定義を表2に示す。今回は第5回の夏季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第1回	平成27年夏季～平成28年春季
第2回	平成28年秋季～平成29年夏季
第3回	平成29年秋季～平成30年夏季
第4回	平成30年秋季～令和元年夏季
第5回	令和元年秋季～令和2年夏季



写真 1 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点図

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 3、船上センサス結果を表 4、ラインセンサス結果を表 5、定点観察結果を表 6 に示す。

- 現地調査の結果、7 目 16 科 21 種が確認された (表 3)。
- 確認種のおよそ半数は水域やその周辺に生息する鳥類であり、カルガモやアオサギ、ユリカモメ等 10 種が確認された。島内では、オナガやシジュウカラ、ヒヨドリ等の森林やその周辺に生息する鳥類が 4 種、草地に生息するオオヨシキリが 1 種確認されたほか、都市部で見られるハシブトガラスやムクドリ等が確認された。(表 3)
- 渡り区分別にみると、カワウやカワラヒワ等の留鳥 (ある地域で一年中見られる種) が最も多く、次いでツバメやオオヨシキリ等の夏鳥 (ある地域で夏季に見られる種) が確認されたほか、キアシシギ等の旅鳥 (ある地域で一時的に見られる鳥) も確認された。

- 重要種はダイサギ、コサギ、キアシシギ、イソシギ、カワセミ、オオヨシキリの合計 6 種が確認された（表 3）。島内では、護岸周辺にとまるカワセミ、休息をするダイサギ、キアシシギ、採餌するイソシギが、陸域の高茎草地では、さえずるオオヨシキリが確認された。また、島周辺の海域上空を飛翔するダイサギ、コサギが確認された。
- 外来種はドバトが確認された（表 3）。
- 確認個体数が特に多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスでは 2 島で合計 62 個体（表 4）、ラインセンサスでは合計 97 個体（表 5）確認され、優占度は東島で 39%、西島で 79%を占め、定点観察調査では合計 92 個体（表 6）が確認された。なお、巣を利用する個体はいなかったが、周辺では幼鳥が確認された。（鳥の島で生まれた個体かは不明）
- スズメはラインセンサスでは合計 18 個体（表 5）、定点観察調査では合計 12 個体（表 6）が確認され、カワウに次いで確認個体数が多かった。本種は東島の南西端と西島の北東端を往来していた。また、ソメイヨシノやタイリョウザクラの枝で休息をする様子や、地上で採餌（対象は不明）する様子が確認された。
- 広葉樹でシジュウカラが昆虫類を採餌する様子や、草上や地上付近でカワラヒワが採餌（対象は不明）する様子が確認された。カワラヒワは主に植物食であるが、草本に隠れた昆虫類を採餌していた様子が確認された。いずれの種も鳥の島を採餌場所として利用していた。

（2） 過去調査との比較

表 7 に確認種、表 8 に船上センサス結果、表 9 にラインセンサス結果、表 10 に定点観察結果、それぞれの前回調査（夏季）との比較を示し、表 11 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 前回調査（夏季）との確認種数の比較は、第 4 回では東島で 17 種、西島で 11 種、合計 19 種、第 5 回では東島で 20 種、西島で 16 種、合計 21 種であった（表 7）。第 4 回の確認種（19 種）のうち、猛禽類以外の種（15 種）はすべて第 5 回でも確認されており、鳥類相に大きな変化はなかった。
- 第 4 回で確認されず第 5 回で確認された種はキアシシギとカワセミ、オナガ、シジュウカラ、オオヨシキリ、ドバトであり、第 4 回で確認され第 5 回で確認されなかった種はトビ、オオタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサであった（表 7）。オオヨシキリはすでに活発にさえずる時期を逸していたが、東島では目視、西島では鳴き声が記録された。また、今回初記録であるキアシシギや、過去に確認されたが確認頻度の低いカワセミ、オナガについては、休息や採餌するために、一時的に飛来したものと考えられる。シジュウカラは前述したとおり本島を採餌場として利用する様子が、ドバトは上空通過する様子が確認された。

- 第4回より第5回で個体数や優占度が著しく増加した種はカワウであった（表8、9）。今回調査では、ラインセンサスにおいて、第4回調査ではカワウの確認個体数が少なかったこともあるが、第5回では、東島の北東側の護岸や、西島の南東側の護岸で本種が多数休息していたため、著しく個体数及び優占度が増加したものと考えられる。
- 第4回より第5回で個体数が著しく減少した種は特になかった（表8、9、10）。
- 第4回で確認された猛禽類が第5回では4種とも確認されなかったが、第5回調査では調査範囲外でチョウゲンボウが確認されたほか、後述する自動撮影カメラによってオオタカが確認されたことから、鳥の島やその周辺を含めた環境をこれらの猛禽類が生息していると考えられる。
- 今回の春季調査で初めて確認された種はキアシシギであった（表11）。本種は東島での任意調査中、西側の護岸で休息する2個体が確認された。本種は旅鳥であり、一時的に鳥の島に立ち寄ったものと考えられる。
- 西島ではオオヨシキリが初記録となった。本種は西島の南端の高茎草地でさえずりをしており、さえずった後、東島へ移動した。東島には小規模だが生息適地が存在するため、そこに生息する個体が西島に一時的に移動したものと考えられる。

（3） その他

その他方法（自動撮影カメラ設置による調査及び鳥類調査時の他項目の調査）による結果について鳥類5目7科9種、哺乳類1目1科1種、爬虫類1目2科2種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではカルガモ、キジバト、カワウ、オオタカ、ハシブトガラス、アカハラ、シロハラ、ツグミ、スズメの9種、哺乳類ではドブネズミ1種が確認された。
- 自動撮影カメラ調査において、ホンドタヌキは撮影されなかった。夏季調査においてもホンドタヌキの新しいため糞は確認されなかったことから、2019年の秋季に一時的に西島を利用していたものと考えられる。秋季調査時の糞の量から複数個体が一時的に生息していた可能性がある。
- 踏査時には爬虫類のアオダイショウ、ニホンカナヘビの2種が確認された。
- 重要種として、オオタカ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧、東京都レッドリスト：絶滅危惧ⅠA類）が地面や横枝にとまる様子が6～7月に撮影され、繁殖期にも西島を利用していることが明らかとなった。また、現地調査時にアオダイショウ（東京都レッドリスト：準絶滅危惧）1個体、ニホンカナヘビ（東京都レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）2個体が西島で確認され、両種ともに西島南側の草地に隠れるように休息している様子であった。

- 特記事項として、リュウキュウベニイトトンボが東島で確認された。本来は九州南部(熊本県、宮崎県、鹿児島県)以南に分布するが、近年関東近郊各地で分布拡大が懸念されている種であり、人為的な移入(国内外来種)と考えられている。今回、東島南側のサクラの植林地付近で確認された。台場島の陸域か、旧防波堤内で発生したか否かは不明だが、今後も生息状況に留意する。

表 3 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	調査時期		重要種選定基準			
				夏季(7月)		①	②	③	④
				東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	○	○				
2	ハト	ハト	キジバト	○	○				
3	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○				
4	ペリカン	サギ	アオサギ	○	○				
5			ダイサギ	○	○				VU
6			コサギ	○	○				VU
7	チドリ	シギ	キアシシギ	○					VU
8			イソシギ	○	○				VU
9		カモメ	ウミネコ	○	○				
10	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○					VU
11	スズメ	カラス	オナガ	○					
12			ハシブトガラス	○	○				
13		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○				
14		ツバメ	ツバメ	○	○				
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○					
16		ヨシキリ	オオヨシキリ	○	○				VU
17		ムクドリ	ムクドリ	○	○				
18		スズメ	スズメ	○	○				
19		セキレイ	ハクセキレイ	○					
20		アトリ	カワラヒワ	○	○				
21	(ハト)	(ハト)	ドバト		○				
合計	7 目	16 科	21 種	20 種	16 種	0 種	0 種	0 種	6 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は以下の通りである。

①文化財保護法(昭和 25 年、法律第 214 号)

天:天然記念物 特:特別天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号;平成 23 年改訂)

国内:国内希少野生動植物 国際:国際希少野生動植物

③「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)における掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)～」(平成 25 年、東京都)における区部の掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留意:留意種

表 4 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				夏季(7月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	8	10
2	カツオドリ	ウ	カワウ	29	33	62
3	ペリカン	サギ	アオサギ	10	8	18
4			ダイサギ	6	0	6
5	チドリ	シギ	イソシギ	0	1	1
6		カモメ	ウミネコ	1	1	2
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	4	0	4
8		アトリ	カワラヒワ	1	0	1
合計	5 目	7 科	8 種	53	51	104
				7 種	5 種	8 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季(7月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	3%	6	7%	8
2	ハト	ハト	キジバト	2	3%	1	1%	3
3	カツオドリ	ウ	カワウ	27	39%	70	79%	97
4	ペリカン	サギ	アオサギ	7	10%	1	1%	8
5			ダイサギ	2	3%	0	0%	2
6	チドリ	カモメ	ウミネコ	0	0%	1	1%	1
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	5	7%	4	4%	9
8		シジュウカラ	シジュウカラ	4	6%	0	0%	4
9		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	1	1%	1
10		スズメ	スズメ	14	20%	4	4%	18
11		アトリ	カワラヒワ	6	9%	1	1%	7
合計	6 目	10 科	11 種	69	100%	89	100%	158
				9 種		9 種		11 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				夏季(7月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	4	8%	0	0%	1	3%	0	0%	5
2	ハト	ハト	キジバト	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	1
3	カツオドリ	ウ	カワウ	38	72%	18	55%	29	74%	7	41%	92
4	ペリカン	サギ	アオサギ	3	6%	2	6%	0	0%	0	0%	5
5			ダイサギ	0	0%	1	3%	1	3%	2	12%	4
6			コサギ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1
7	チドリ	カモメ	ウミネコ	0	0%	3	9%	1	3%	3	18%	7
8	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	4%	1	3%	0	0%	0	0%	3
9		シジュウカラ	シジュウカラ	2	4%	4	12%	0	0%	1	6%	7
10		ヨシキリ	オオヨシキリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	1
11		ムクドリ	ムクドリ	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1
12		スズメ	スズメ	2	4%	2	6%	5	13%	3	18%	12
13		アトリ	カワラヒワ	0	0%	1	3%	1	3%	0	0%	2
14	(ハト)	(ハト)	ドバト	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	1
合計	6 目	11 科	14 種	53	100%	33	100%	39	100%	17	100%	142
				8 種		9 種		7 種		6 種		14 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 前回調査結果との比較：確認種（夏季）

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)		夏季(7月)	
		第4回 (H30～H31/R1)		第5回 (R1～R2)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○		○	○
2	キジバト	○	○	○	○
3	カワウ	○	○	○	○
4	アオサギ	○	○	○	○
5	ダイサギ	○	○	○	○
6	コサギ	○	○	○	○
7	キアシシギ			○	
8	イソシギ	○		○	○
9	ウミネコ	○	○	○	○
10	トビ	○			
11	オオタカ		○		
12	カワセミ			○	
13	チョウゲンボウ	○			
14	ハヤブサ	○			
15	オナガ			○	
16	ハシブトガラス	○	○	○	○
17	シジュウカラ			○	○
18	ツバメ	○	○	○	○
19	ヒヨドリ	○		○	
20	オオヨシキリ			○	○
21	ムクドリ		○	○	○
22	スズメ	○	○	○	○
23	ハクセキレイ	○		○	
24	カワラヒワ	○		○	○
25	ドバト				○
合計	25 種	17 種	11 種	20 種	16 種
		19 種		21 種	

表 8 前回調査との比較：船上センサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期			
		夏季(7月)		夏季(7月)	
		第4回 (H30～H31/R1)		第5回 (R1～R2)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	4	0	2	8
2	キジバト	0	1	0	0
3	カワウ	16	45	29	33
4	アオサギ	7	4	10	8
5	ダイサギ	0	0	6	0
6	イソシギ	2	0	0	1
7	ウミネコ	1	0	1	1
8	オオタカ	0	1	0	0
9	ハシブトガラス	1	3	4	0
10	ムクドリ	0	1	0	0
11	スズメ	0	3	0	0
12	カワラヒワ	0	0	1	0
合計個体数		31	58	53	51
合計島別種数		6 種	7 種	7 種	5 種
合計種数		10 種		8 種	

表 9 前回調査との比較：ラインセンサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期							
		夏季(7月)				夏季(7月)			
		第4回(H30～H31/R1)				第5回(R1～R2)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	0	0%	2	3%	6	7%
2	キジバト	1	11%	1	7%	2	3%	1	1%
3	カワウ	4	44%	5	33%	27	39%	70	79%
4	アオサギ	2	22%	2	13%	7	10%	1	1%
5	ダイサギ	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%
6	コサギ	1	11%	0	0%	0	0%	0	0%
7	ウミネコ	0	0%	1	7%	0	0%	1	1%
8	ハシブトガラス	0	0%	6	40%	5	7%	4	4%
9	シジュウカラ	0	0%	0	0%	4	6%	0	0%
10	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
11	スズメ	1	11%	0	0%	14	20%	4	4%
12	カワラヒワ	0	0%	0	0%	6	9%	1	1%
合計	12 種	9	100%	15	100%	69	100%	89	100%
		5 種		5 種		9 種		9 種	

表 10 前回調査との比較：定点観察結果（夏期）

No.	種名	調査時期															
		夏季(7月)								夏季(7月)							
		第4回(H30～H31/R1)								第5回(R1～R2)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度
1	カルガモ	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%	4	8%	0	0%	1	3%	0	0%
2	キジバト	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
3	カワウ	14	52%	26	76%	14	41%	14	54%	38	72%	18	55%	29	74%	7	41%
4	アオサギ	1	4%	1	3%	2	6%	2	8%	3	6%	2	6%	0	0%	0	0%
5	ダイサギ	0	0%	1	3%	0	0%	1	4%	0	0%	1	3%	1	3%	2	12%
6	コサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
7	ウミネコ	1	4%	3	9%	15	44%	2	8%	0	0%	3	9%	1	3%	3	18%
8	トビ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	チョウゲンボウ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
10	ハヤブサ	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
11	ハシブトガラス	0	0%	0	0%	3	9%	2	8%	2	4%	1	3%	0	0%	0	0%
12	シジュウカラ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4%	4	12%	0	0%	1	6%
13	ツバメ	3	11%	0	0%	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14	オオヨシキリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%
15	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
16	スズメ	4	15%	1	3%	0	0%	3	12%	2	4%	2	6%	5	13%	3	18%
17	カワラヒワ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	1	3%	0	0%
18	ドバト	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%
合計	18 種	27	100%	34	100%	34	100%	26	100%	53	100%	33	100%	39	100%	17	100%
		8 種		7 種		4 種		8 種		8 種		9 種		7 種		6 種	

表 11 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 5 回)

No.	種名	調査時期									
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○	
2	ヒドリガモ									○	○
3	マガモ		○	○	○		○	○	○		
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	オナガガモ				○	○	○			○	
6	コガモ							○			
7	ホシハジロ						○	○		○	○
8	キンクロハジロ										○
9	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	ウミアイサ		○					○	○	○	
11	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	ミミカイツブリ			○							
13	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○
14	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	ゴイサギ					○					
17	ササゴイ		○								
18	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	チュウサギ									○	
21	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○
24	タシギ								○		
25	キアシシギ									○	
26	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	キョウジョシギ					○	○				
28	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	カモメ	○	○			○					
31	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○				
33	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○		
34	ミサゴ	○		○			○		○		○
35	ハチクマ	○									
36	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	ハイタカ		○		○					○	
38	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●
39	ノスリ		○	○	○	○		○		○	
40	カワセミ			○			○			○	
41	チョウゲンボウ		○				○	○			
42	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○		
43	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○
44	カケス				○						

表 11 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 5 回)

No.	種名	調査時期									
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
45	オナガ			○	○	○	○			○	
46	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	ヒバリ						○				
49	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○
52	オオムシクイ								○		
53	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	オオヨシキリ			○		○				○	○
55	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○
56	コムクドリ				○	○					
57	シロハラ	○	○	○	○						●
58	アカハラ	○			○			○			○
59	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○
61	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○
62	キビタキ	○				○					
63	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	キセキレイ			○							
65	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
66	セグロセキレイ				○						
67	タヒバリ						○				○
68	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	シメ							○			
70	ホオジロ	○		○	○			○		○	
71	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	オオジュリン			○						○	
73	ドバト	○	○					○			○
合計	73 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	39 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		50 種	

注 1. ●: 自動撮影カメラのみで確認された種を示す。他調査回とは調査手法が異なるため、種数に計上しなかった。

 カルガモ	 カワウ
 アオサギ	 ダイサギ(重要種)
 コサギ(重要種)	 キアシシギ(重要種)
 イソシギ(重要種)	 ウミネコ
 オナガ	 ハシブトガラス

写真 2 (1) 鳥の島で確認された主な鳥類

 シジュウカラ	 ツバメ
 ムクドリ	 スズメ
 ハクセキレイ	 ドバト

写真 2 (2) 鳥の島で確認された主な鳥類



写真 3 (1) 自動撮影カメラ及び踏査中に確認された生き物

 スズメ(自動撮影カメラ)	 ドブネズミ(自動撮影カメラ)
 ドブネズミ(踏査)	 ニホンカナヘビ(踏査・重要種)
 アオダイショウ(踏査・重要種)	 チョウゲンボウ(調査範囲外・重要種)
 リュウキュウベニイトトンボ(踏査・外来種)	

写真 3 (2) 自動撮影カメラ及び踏査中に確認された生き物